

高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧図について

三木和美（大阪大・院）・亀山玲子（大阪大・学生）・
金 美英（大阪大・院）・竹内加枝（大阪大・学生）・
小林 茂（大阪大）

本稿では、高木菊三郎旧蔵の内邦地図一覧図をはじめとする資料について、その性格を簡単に検討する。目録に示すとおり、資料は全80点で、図式は明治19年製版、一覧図は明治18年製版のものから確認された。

本資料は、その多くに手書きのメモが残され、折り皺の深さなどから伺われる使い古された資料の状態から、保存用としてではなく、高木菊三郎氏によって作業用として使用されたものと考えられる。

次に資料の位置付けにうつりたい。内邦地図一覧図に関する網羅的な目録はまだ作成されていないが、既往研究では清水（1970、1993）がここで紹介する多くの資料を記載している。戦前の一覧図全46点のうち、26点は清水に記載されている資料と一致した。

記載されていなかった20点の資料の一つに、『陸地測量部発行地図区域一覧表』がある。これは大正15年に第三種郵便物認可を受けた、『キャムピング』5月号（昭和3年発行）の特別付録としてジャパン・キャンプ・クラブによって発行された地図である。「月刊『キャムピング』は登山、キャムピング、旅行、狩漁、スキー、ハイキング等アウトドア・スポーツ全般の本邦唯一の月刊雑誌」と説明が記載されている。戦前において一覧図がこのような雑誌の付録となっていたのは興味ぶかい。

また、『陸地測量部発行地図区域一覧表』（昭和16年10月修正）には、カラーの凡例が手書きされている。「要塞地帯及秘図区域」、「削除出版図製版完成」、「削除出版図停止区域」、「削除出版図印刷完成」、「軍機保護法地帯発行停止」、「全右発行未停止」の6凡例が記され、実際に地図上にも用いられている。

さて、全10点ある「測図記号」や「図式」の年紀については、「製版」「出版」「修正」「編輯製版」「測図」「印刷」「発行」「所定」が記載されている。明治19年から20年半ばまでは、参謀本部陸軍部測量局が作成し版權を所有しており、宇津木信夫・岡田栄

助・小和田順之助の3人が発行に携わっている。明治20年から大正7年にかけては、陸地測量部が作成し、陸地測量部が著作権を所有し、印刷兼発行者になっている。縮尺に関しては、2万分1、5万分1、20万分1が確認され、図式の対象地域には廣嶋、岡山、名古屋があった。

全70点ある「一覧図」や「一覧表」については、「製版」「製図製版」「測図」「修正測図」「修正」「再修」「修正再版」「調製」「調」「更改出版」「印刷発行」「訂正」「現在」の年紀が記載されている。

この間、多様な一覧表（図）の発行者・販売者が見受けられ、発行者によって大きく3つの時期に分けることができるのではないかと考える。まず、明治20年から29年までの時期は、岡田栄助・小和田順之助・宇津木信夫を中心として一覧図が発行されていた。次に、明治41年から昭和16年頃までの時期は、小林又七（川流堂）が、昭和20年頃から52年にかけての時期は、日本地図共販（株）・（株）武揚堂・内外地図（株）が中心となって地図を販売していたと推測される。昭和7年・11年に「軍事教育会」や「軍人会館出版部」が関わっていることから、次第に戦時色が強くなっていった様子がうかがわれる。戦後、大百貨店の一つである松坂屋が地図の販売代理店を務めていたことも興味深い。

参考文献

- 清水靖夫「地図一覧図について—地図資料としての—」
地図8-2：17-24，1970。
清水靖夫「地図一覧図について—陸地測量部～地理調査所発行地図の索引類—」地図31-4：2-11，1993。